

N P O（特定非営利活動法人） 2 1 世紀水俱樂部

平成 2 4 年度年報

自平成 24 年 4 月 1 日 至平成 25 年 3 月 31 日

平成 25 年 7 月 2 1 世紀水俱樂部

目次

「21世紀水倶楽部のさらなる飛躍を願う」国土交通省水管理・国土保全局下水道部長 岡久宏史	・・・1
「21世紀水倶楽部10周年に寄せて」(地共)日本下水道事業団理事長 谷戸善彦	・・・2
「21世紀水倶楽部10周年に寄せて」(公社)日本下水道協会理事長 曾小川久貴	・・・3
「21世紀水倶楽部10周年に寄せて」(一社)日本水道工業団体連合会顧問 坂本弘道	・・・4
1. 活動グループの活動概況	・・・6
1.1 「基礎知識普及と広報」担当グループの活動概況	・・・6
1.2 ディスポーザ分科会活動概況	・・・10
1.3 みづなぐプロジェクト活動概況	・・・10
1.4 下水道管路分科会活動概況	・・・11
1.5 「放射能」担当グループの活動概況	・・・11
1.6 活動成果出版編集委員会活動概況	・・・12
1.7 HP上での活動概況	・・・12
2.1 シンポジウム(研究集会)の開催	・・・12
2.1.1 研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」	・・・12
2.1.2 研究集会「21世紀の消化技術を考える」	・・・14
2.1.3 研究集会「排水設備の今日的課題」	・・・15
2.1.4 研究集会「取付管の今日的課題」	・・・16
2.2 その他の活動	・・・18
2.2.1 みづなぐプロジェクト下水道展2012神戸 活動結果	・・・18
2.2.2 イタリア上下水道遺跡見学ツアー	・・・21
2.3 出前講座	・・・24
2.3.1 「いのちと水の連続講座」との共催「私たちの流した水はどこへゆくのか」	・・・24
2.3.2 小平市ふれあい下水道館特別講話	・・・26
3. 平成24年度末会員等の現況	・・・26
4. 平成24年度決算報告の概要	・・・27
資料編(平成25年6月20日通常総会資料)	・・・29

「21世紀水倶楽部のさらなる飛躍を願う」

国土交通省水管理・国土保全局下水道部長 岡久宏史

21世紀水倶楽部の設立10周年、誠におめでとうございます。会員の皆様には、この10年間、下水道の正しい姿を世の中に伝える活動に精力的に取り組まれていることに対しまして衷心より敬意を表しますとともに感謝申し上げる次第です。

また、平成15年度年報に掲載されている「設立までの経緯」を改めて読ませていただきました。設立当時の役員の方々への熱い思いに改めて感銘を受けたところです。

さて、21世紀水倶楽部の設立時は「三位一体改革」の真っ只中で、下水道事業も厳しい状況に直面しており、情報発信が強く求められていた時期でした。そのような中で21世紀水倶楽部を立ち上げられたことは非常に大きな意義があったと思います。

その後、下水道の持つ役割はますます多様化し、貢献すべき分野も広がっております。また、主要な課題も時代とともに変化しており、今後とも下水道事業を適切かつ的確に推進しなければなりません。そのためには、国民の方々の理解と下水道事業推進は重要だとの後押しの声が必要です。がしかし、下水道事業の重要性、必要性が十分国民の方々に理解されているかという点とまだまだ心許ないところがあります。

国土交通省下水道部では、情報発信の重要性を再認識し、なお一層広報に力を入れようと数年前から「共感を生み出す広報の展開」を掲げ、精力的に活動しつつあるところです。また、平成24年度には「下水道広報プラットフォーム（GKP）」も立ち上がり、産官学協力して広報に積極的に取り組む場も出来上がり、本格的な広報時代を迎えています。

しかし、一般市民の方々との協働の拠点となるNPOについては、関西地域を中心に「NPO法人・水澄」も活動されていますが、非常に少ない状況にあります。従いまして、その先駆けとして発足された21世紀水倶楽部におかれましては、国民の方々を大いに巻き込みながら、従来にも増して情報発信に取り組んで頂きたいと思います。

知人から聞いた蓋し名言だと感心したボランティア活動の心構えがあります。それは、「コツコツと、出来ることから少しずつ、汗はかいても、命は賭けず、やらされるではなく、好きだからやる」との言葉です。会員の皆様におかれましては、引き続きこのような気持ちで、豊かなご経験と知識を大いに発揮いただき、下水道界を成熟化させ、その価値やブランド、ステイタスの向上にご貢献いただければと思います。

今後とも21世紀水倶楽部が益々ご発展され、大いに飛躍されますとともに、会員各位の益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

21 世紀水倶楽部 10 周年に寄せて

地方共同法人 日本下水道事業団理事長 谷戸善彦

21 世紀水倶楽部設立 10 周年、心からおめでとうございます。

設立当初からの活動をよく存じ上げている者として、この 10 年間のご活躍に深く敬意を表する次第です。

平成 14 年 12 月 18 日に、中川幸男さん、望月倫也さん、現理事長の亀田泰武さんの 3 人が集まって、第一回設立準備会が開催されました。その後、4 回の設立準備会を経て、平成 15 年 5 月 9 日に設立総会が開催され、5 月 20 日に NPO 法人設立認証申請書を東京都へ提出、8 月 27 日に認証書を受領されました。私は、当時、国土交通省の下水道事業課長をしており、今でも、設立に至る当時の動き・状況をはっきりと覚えています。特に、設立に向け、奔走され、東京都への申請書案等を携えて、何回も状況報告に国土交通省に来られていた中川さんのご尽力には、いまでも頭が下がる思いです。

平成 10 年に NPO 法が施行され、他の社会資本分野、特に、河川事業の分野等では、全国で河川事業とコラボレーションした NPO 法人が次々と設立され、国民への河川事業の情報発信・河川整備への国民の声の取り込みが大きく進んでいました。平成 13 年 3 月まで、東北地方整備局に勤務し、こうした NPO 法人の方々と連携しながら仕事を進めてきた私は、下水道分野でも「骨太の凛とした NPO 法人」があるとどんなにすばらしいだろうと、考えていました。そのとき、中川さんらが中心に、設立を企画されておられたのが、21 世紀水倶楽部でした。

当時の設立趣意をしるした書類には、設立の目的として、①下水道の正しい姿を世の中に伝えること②経験者の意見開示の場を提供すること③世の中の声を汲み上げること④下水道に限らず広く環境問題に関心を持ち真理を追究すること の 4 点が述べられています。この設立時の目的は、今も変わらないところだと思います。

この目的に沿って、ここ 10 年、下水道に関する基礎知識の普及・啓蒙、ディスポーザ問題、合流式下水道問題、都市雨水対策、災害対策、IT の活用等、幅広いテーマに関して、シンポジウム・研究集会の開催、出前講座等精力的に活動を続けてこられました。ディスポーザの普及問題等、力を入れての独自の取り組みも継続的に行ってこられました。深く敬意を表するところです。

10 周年を機に、新たなさらなるチャレンジに挑んでいただきたいと思います。21 世紀水倶楽部から、「下水道ビジョン提言」を発して頂ければと期待しております。21 世紀水倶楽部の益々のご発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

21 世紀水倶楽部 10 周年に寄せて

公益社団法人 日本下水道協会理事長 曾小川久貴

21 世紀水倶楽部が設立 10 年を迎えられた由、心よりお慶びを申し上げます。

下水道事業は、永らく事業の宿命ともいえる「見える化」に腐心してきました。最近でもGKP（下水道広報プラットフォーム）が設立され、様々な主体が連携しつつ効率的な下水道広報を展開しています。

水倶楽部は設立目的で一般市民への環境保全の普及・啓発とし、HPの充実はじめ出前授業等、活発な活動を続けられるとともに、この度の「下水道展’13東京」では、従来のパブリックゾーンを全面リニューアルした「すいすい下水道研究所」の企画運営にGKPとともに水倶楽部会員各位にもお手伝いいただく予定です。心より感謝申し上げます。

また、水倶楽部の活動の特色は何と言っても、行政、研究、現場等において錚々たる経歴を有するOBを主体にしたメンバーによって繰り広げられる研究集会にあります。ディスプレイや排水設備の管理問題など、これまで行政が正面から取り組むことを避けてきた課題や、不得手とする諸問題を研究テーマに据え、様々な角度から議論し、その結果は下水道関係者に多くの刺激を与えてきました。

このほか、少し毛色は違いますが、下水道協会活動との関係で注目しているのが、HPの「(仮称) 思い出の記-事業」のコーナーです。下水道に関連したプロジェクトについて、会員各位の体験や思い出の記録、写真など貴重な資料が収録されています。

そこで、協会活動との関連ですが来年度、協会は創設 50 周年を迎えます。現在、記念行事の一環として現日本下水道史の続編を編纂する計画を進めています。対象期間は現下水道史以降の概ね昭和 50 年から現在までとしています。当時の資料が散逸するなど資料集めに苦慮している状況です。ついては、約 30 年間の出来事や資料等のご提供をお願いしたいと思います。詳細については、阿部千雅下水道史編纂室長（Tel03 - 6206 - 0264）までご連絡ください。貴重な経験や技術を承継していくことは、水倶楽部の活動目的にも合致していると思われます。是非ご協力のほど、よろしく願いいたします。

最後に、水倶楽部が多くの会員参画のもと、益々活動の枠を拡大し、専門家集団として下水道界に発信し続けられることを心より祈念申し上げます。

21世紀水倶楽部10周年に寄せて

一般社団法人 日本水道工業団体連合会顧問 坂本弘道

NPO 21世紀倶楽部が認証10周年、まことにおめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

小生は、倶楽部発足当時から会員に登録、理事に就任いたしました。しかしながら、職務の都合などにより、行事に出席することがままなりません。今回、水団連の専務理事を退任、顧問に就任いたしましたので、自由時間が大幅に増加、積極的に出席いたします。

さて、上下水道界にとってこの10年は大きな動きがありました。その一つは、民主党政権時代の仕分け作業によって、下水道の国庫補助金制度が交付金制度に移行したことであります。下水道整備は地方公共団体によって整備されていますので、その施策はむしろ当然のことではあります。しかしながら、中小の公共団体の下水道整備は、国の施策によって進められてきたことも事実であります。国と地方公共団体は連携を密にして今後の下水道整備の方向を決定したいものです。

上水道の国庫補助制度もその一部は交付金制度に移行していましたが、最近またもとの制度に戻っています。このように、上下水道の世界は、補助制度一つをとっても翻弄されてきました。

このような動きと並行して東日本大震災が発生しました。上水道の被害はそれほど大きくはありませんでしたが、海岸近くに処理場がある下水道施設は壊滅的な被害を受けました。発生から2年余経ち、国の全面的な助成により、ほぼ復興しつつあります。このような大震災は不定期的に発生することを前提に、特に震災対策に力を注がなければなりません。

最近の大きな動きとして、水循環基本法の制定があります。水に関する法律は、下水道法、水道法、河川法、水質汚濁防止法等多くの法律がありますが、いずれも個別法で、水全体を包括するいわば水の憲法にあたる法律がありません。また、地下水の法律もありません。

数年前から水循環基本法を制定し、地下水を公水として位置付け、水に関する法律の見直し、集大成の動きが活発化してきました。霞が関の水行政制度の見直しもその一環であります。小生もその実現に向けて、尽力してまいりました。

その動きがこのところ急であります。法案は議員立法で国会に提出の予定です。今国会で成立させるか、継続審議にして次の臨時国会に持ってゆくか、瀬戸際に来ています。こ

の法律が成立すると、次の作業が待ち構えています。上下水道の姿も大きく変わろうとしています。

このような折、21世紀倶楽部の役割は、まことに重大であります。小生も積極的に参加して、その発展の一役を担います。

1. 活動グループの活動概況

1.1 「基礎知識普及と広報」担当グループの活動概況

研究集会などを合計4回、見学会を1回実施し、またHP列車とトイレ海外編、仮称「思い出の記」、などを中心に作業を行った。

打ち合わせは9回実施。4/11, 5/14, 6/28, 8/3, 9/19, 10/22, 11/15, 1/17, 3/14。

○ 下水道何でもなどのHPの拡充

知識の普及を目指す、下水道何でも、家庭排水とその処理いろいろ、のHP拡充を行った。

* 1, 列車トイレ世界編

列車トイレのホームページは平成17年の「日本の列車トイレの変遷」をスタートに、情報を世界に広げイタリア、スイス、スペイン等のヨーロッパからモロッコ、エジプト等のアフリカ、中国、台湾のアジアなど、14編を掲載してきた。24年度は、新たに世界の列車トイレとして、ポルトガル、フランス、中国・その2としてシルクロードの列車トイレとスイス・その2として観光列車のトイレを紹介した。

* 2, トイレトペーパー歴史の新設

家庭紙史研究者である関野勉さんにトイレで使用される紙などの歴史を提供いただいた。

* 3, 世界のトイレの新設

日本のトイレが温水式洗浄方式により急速に欧州化している現在、世界のトイレがどうなっているか、情報を収集し広報することにした。南アジアから中近東、欧州の一部までホースやひしゃくによる水洗いトイレが普及している。

* 4, 江戸下町の水回り掲載

家庭排水とその処理いろいろでは東京都水道歴史館を取材し、江戸下町の水回りを載せた

* 5, リンク先の更新

欧州のマンホール蓋デザイン、GKPのページにリンクした。今後ともテーマの趣旨を考え、興味を持たれる情報提供に務めていきたい。

○東日本大震災下水道関連情報ページの終了

被災から2年経過し、津波被災地の復興はまだまだの感があるが、水倶楽部の情報発信の必要性が薄れてきたので、このページを終了した。

○仮称「思い出の記」事業の推進

時の流れによって次第に過去に埋もれていく事業や人をできるだけ残していこうという目的ではじめたもの。広く原稿を募集し、情報を得て、内容の拡充を図っていく。

内容は、1、直接執筆したもの、2、事業体下水道史など既発行図書のリスト化、3、雑誌などに掲載されたプロジェクト経緯、などの資料収集から構成されている。

また「思い出の写真館」をはじめている。工事や作業の写真、記念の写真など載せていく予定。

* 1、思い出

下水道に関連したプロジェクト（事業化、用地折衝、計画、設計、工事、改良、技術開発、研究、制度化）などの思い出、記録などを募集。

24年度では山下博会員から、急速に都市化し、浸水対策が急務であった鶴見川流域で平成5年度から建設の始まった横浜市最大の雨水幹線である新羽末広幹線の投稿をいただいた。

* 2、事業の記録

各地でまとめられた下水道に関連した歴史、事業報告をリスト化。また概要の紹介を行う。本文は国会図書館での閲覧を原則にし、国会図書館で検索したものから載せ、範囲を広げている。

* 3、関連資料

プロジェクトの経緯などの資料、雑誌などから収集

* 4、思い出の写真館

昔つくられた今でも現役の施設やすでにない施設、工事や作業の写真、記念の写真など（20世紀のものが主と考える）を収集し載せている。

24年度では昭和15年に運転開始し、古い施設が今でも動いている大阪市津守処理場を竹石和夫会員が取材し、掲載した。

中川幸男名誉会員から大阪府猪名川流域下水道が運転開始した頃、昔の日米交流など思い出の写真の提供を受け掲載した。

神戸市中部処理場は昭和33年に、神戸市ではじめて運転開始した。大震災でも被害が小さく、すぐ復旧したが2011年再構築の一環として役割を終えることになり、水道公論2012年7月号に掲載され、この記事について許可を得て掲載した。

○HP－都市排水・生活排水処理の実態・課題を考える－

22年度予算編成にあたり、仕分け作業が大々的に報道され、そのなかで、都市排水・生活排水処理の実態が国会議員に良く伝わっていないことが明らかになった。生活排水処

理事業を進めて行くにあたり、仕分け作業では下水道と浄化槽の対峙の質問や意見に終始したようである。本来地方公共団体が事業主体である下水道事業の実施を「公共団体にまかせる」など、一方的に方向を打ち出すようなこととなっている。

実際には水環境・生活環境の改善のため、地方公共団体が下水道、集落排水、浄化槽を地域の状況に合わせて整備計画を作って整備しているもので、平成10年までに全国で策定が終わり、以降適宜改訂されてきている。

21世紀水倶楽部では、床下、道路下にあって見えにくく、わかりにくいこの問題について2010年1月から関連HPを作成し、情報を発信して行くこととしている。

内容は

①、資料—下水道の役割、機能の正しい理解のために

普及チームで制作

②、会員の意見

21世紀水倶楽部会員の意見

③、各界の声

公共団体首長、学識経験者、評論家、新聞社、公益法人などの掲載された声を集めている。

④、資料・研究会報告

23年度に民主党の水政策 PT（座長＝三井辨雄衆議院議員）が議員立法による立法化をめざす「下水道法等の一部を改正する法律案」について、全国知事会等地方団体に意見照会している。これに対し全国知事会から出された「下水道法等の一部を改正する法律案」に対する意見と全国市長会から出された「下水道法等の一部を改正する法律案」に対する意見が出された。大多数の地方公共団体が法案の趣旨に賛成しておらず、法律案を再考すべきという意見となっている。しかし法案は24年8月7日に提出された。

日本下水道協会は11/8に、理事会で採択した「平成25年度下水道事業予算概算要求に関する提言」および「下水道法の一部を改正する法律案への慎重な対応への緊急提言決議」を携え、民主党、自民党などに、接続義務維持の提言活動を実施した。

これらの状況をホームページに掲載した。

○市民講座など

*1世田谷生活クラブとの共催

「生活クラブ東京」主催（後援：世田谷区、世田谷区教育委員会）の「いのちと水の連続講座」と共催し、生協会員、小学生などを対象に東京都下水道局の南部下水道事務所及び森ヶ崎水再生センターの絶大なるご協力を得ながら二日間かけて実施したものの。

1日目 平成24年8月9日 午前中 説明と現場見学：生活クラブ館及び地先の公共ます、下水道管（枝線及び北沢幹線）

2日目 平成24年8月23日 午前10時から15時30分

北沢幹線（下流の幹線に沿って車中森ヶ崎へ）

森ヶ崎水再生センターで、見学と各自持ち寄った汚水の水質検査実習

* 2 特別講話

平成24年12月16日（日）13:30～15:30 小平市ふれあい下水道館で約30名に対し講話を行った。

- ・中西 正弘「古代遺跡にみる上下水道」
- ・清水 洽 「イタリア上下水道をめぐる旅」

* 3 エコプロダクツ展で活動

平成24年12月13～15日の間ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ展のGK Pブースで毎日説明要員を派遣した。見学者がひっきりなしに訪れ、大繁盛であった。

○干潟（盤州干潟）見学会の実施 7/4

4回目となる木更津の干潟見学会を企画。例年は週末に企画していたが今年は平日の最大大潮であった7月4日に実施。アサリは2006年見学会ほどではないけれど、分布を調べるためあちこち回ってもけっこう生息していて、1kg以上は取れた。

岸から少し離れたところから取れだし、沖の方にいかななくてもある程度大きなものも取れ、殆どアサリばかり。しかし沖の方にいくとアサリがいなくなり、アサリを食べるツメタ貝の卵が至る所に。ツメタ貝の卵は茶碗のような形をしていてすぐわかる。これではアサリがいなくなるのは当然と思われる。今回はじめて小さいハマグリを発見。干潟調査では初めて。

大潮で遠くの波打ち際まで行くことができ、浅瀬で泳いでいた小さなアカエイを追っかけて撮影、あとで写真を見たら砂に隠れた大型のアカエイが至る所に。とげに刺されなくてよかった。アカエイの餌はアサリやゴカイなどで、ツメタ貝も食べてくれるといいのだが。

○シンポジウム・研究会など

下記の4事業を企画して実施し、多数の方の参加者を得た。

H24. 7. 11(水)研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」

H24. 10. 12(金) 秋の研究集会「21世紀の消化技術を考える」

H25. 1. 30(水) 2013 年新春研究集会「排水設備の今日的課題」

H25. 3. 27(水) 2013 年春の研究集会「取付管の今日的課題」

1. 2 ディスポーザ分科会活動概況

ディスポーザ部会では平成 17 年度より直投式ディスポーザ導入のための普及活動として、年 1 回の研究集会を開催したが、今年度は研究集会を開かず、普及のための調査を行った。その結果、生ゴミを下水に持ち込む直投式ディスポーザだけでなく食堂や食品会社等の廃棄物をも受け入れできる下水道を目指し「資源活用型下水道システム研究部会 (SKG)」と名称を変更して活動することにした。以下に今年度の活動を報告する。

- ・平成 24 年 4 月 13 日 (金) 16:00～ 5 名参加で平成 23 年度のディスポーザ活動報告書の確認と、雑誌月刊下水道への「ディスポーザと下水道」原稿作成の件、さらに平成 24 年度の研究集会について打ち合わせた。
- ・8 月 9 日 (木) 16:00～ 7 名参加で平成 24 年度の研究集会の開催について打ち合わせた。
- ・8 月 24 日 (金) 15:00～ ニューヨーク市が公表した「Commercial Food Waste Disposal Study」の記事を見つけて、3 名にて在日米国大使館「ニューヨーク州でのディスポーザ普及の問題」をテーマにした講演を依頼したが、ディスポーザは家庭製品のひとつであり、その普及には時間とお金が必要だとして講演を断られた。
- ・10 月 26 日 (金) 17:00～ 都内にて 5 名参加で平成 24 年度の研究集会開催を断念することを決めた。
- ・平成 25 年 2 月 22 日 (金) 16:00～ 7 名参加で平成 25 年度より直投式ディスポーザの普及活動だけでなく、もう少し活動幅を広げることとし、ディスポーザ研究部会の名称を「資源活用型下水道システムの研究会」として新たにメンバーを募集することと、奥井会長の辞退を受けて、清水が会長を引き継ぐことを決めた。

1. 3 みづなぐプロジェクト活動概況

【GKP との連携】

平成 24 年 6 月、情報共有や広報活動を通して下水道の真の価値を伝える全国ネットワーク「下水道広報プラットフォーム」(GKP) が立ち上がり、みづなぐプロジェクトチームは活動の効率性・実効性を高めるため同組織との連携を図ってきた。具体的には情報の共有化を進めるとともに、以下に記すクイズラリーの実施に関わるアイデアの摺合せなどを行った。

【クイズラリーの実施】

前年に引き続き、下水道展で子供たちに分かりやすく、楽しく下水道を学んでもらうため、クイズラリーを実施した。

期間：平成24年7月24日（火）～27日（金）

場所：神戸国際展示場（神戸市中央区港島中町 6-11-1）

1.4 下水道管路分科会活動概況

下水道管路分科会では、今年度、「排水設備の今日的課題」について、第一弾として排水設備を取り上、第二弾で取付管の研究集会を開催した。

研究集会の開催にあたり、次の通り活動した。

- ・ 11月19日（月）15：00～、研究集会のスケジュールと講師等を決定した。
- ・ 1月17日（木） 15：00～、1月30日（水）に開催する研究集会の担当役割等を決定した。
- ・ 1月30日（水） 13：30～下水道新技術推進機構8階中会議室で59名の参加者で「排水設備の今日的課題」研究集会を開催した。
- ・ 3月14日（木） 15：00～、3月27日開催の研究集会の担当役割等を決めた。
- ・ 3月27日（水） 13：30～下水道新技術推進機構8階中会議室で60名の参加者で「取付管の今日的課題」研究集会を開催した。

1.5 「放射能」担当グループの活動概況

放射能グループは「放射能汚染汚泥の処理等関連技術・製品」掲載事業を立ち上げ、応募のあった技術・製品の実地調査や掲載可否の審査等の活動を行った。当掲載事業で掲載されているのは以下の通り。

- ・ 放射性汚染廃棄物保管・運搬用ボックス（昭和コンクリート工業株式会社）
- ・ 土・粉じん・水・農産物・スラッジ等の放射能モニタリング（OYOグループ）
- ・ SSP工法（機動建設工業株式会社）
- ・ 亜臨界水熱爆砕処理による除染・減容化技術（前田建設工業株式会社）
- ・ 袋詰脱水処理工法による放射性物質汚染汚泥の封じ込め（ハイグレードソイル研究コンソーシアム）

さらに、同掲載事業コーナーには参考として身の回りの放射能に関する解説などを載せている。

平成24年度の活動概要は以下の通り。

- ・ 5月8日（火）10：00～ 応募技術・製品の審査を行った。
- ・ 7月17日（火）15：00～ 応募技術・製品の審査を行った。

- ・10月2日（火）14：00～ 応募技術・製品の審査を行った。
- ・10月4日（木）14：00～ 応募技術・製品の現地調査を行った。
- ・12月11日（火）10：00～ 応募技術・製品の審査を行った。

1.6 活動成果出版編集委員会活動概況（21世紀水倶楽部だより）

「21世紀水倶楽部だより」発行までの経緯については21年報に記載の通り。

○「21世紀水倶楽部だより」発行の経緯

- ・前年度まで第22号(通算23回)を発行、24年度は23号から26号まで、H23年7,9,11,H25年3の各月に発行（計4回）した。
- ・メールでのURL案内方式による配布は、正会員と賛助会員あてのほか、非会員の行事参加者にもBCCで配布した。非会員配布数は各号毎に増加し、最終では401名(25.5現在、行事案内メールの送付先数)に達している。
- ・記事の種類では、巻頭文(理事監事が交代で執筆)、活動報告、会員だより(第4号より)、お知らせ、編集幹事のあと整理、の構成になっている。

1.7 HP上での活動概況

ホームページ上での会員活動は、最近のNPO活動の主流となっている。また、当会の特性でもある遠隔地の会員にとっては、会員会合などへの参加が不便なので、そのかわりとしてHP活動は利便を担保するものとなっている。

会の発足当初から以上のことに留意し、①会員個人HPへのリンク、②会員論文図書館(投稿スペース)、③掲示板(正論広場)(人・水・未来・・・試行中)、④会員活動への招待コーナーなどを用意している。

- ①の個人HPは亀田泰武、谷岡康、望月倫也の三会員分をリンク。
- ②の会員論文図書館は、今年度の投稿はありませんでした。累計25編。(ほかに論文図書館特別バージョンの「三位一体改革への意見」と「集中と分散の議論」がある)
- ③の「正論広場」掲示板では投稿・意見交換は以前ほど活発ではない。
- ④会員活動への招待は計12活動のラインアップとなっている。(昨年度と同様)
- ⑤「放射能汚染汚泥の処理等関連技術・製品」掲載事業のページへのリンク

2.1 シンポジウム(研究集会)の開催

2.1.1 研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」2012.7.11

・開催趣旨

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、わが国の社会や経済、環境などさまざまな

ものに影響を与え、あらゆる都市の基盤や活動に地震への備えが求められることとなった。なかでも発災後のトイレに関わる問題は、阪神・淡路大震災以降長らく指摘されてきたことではあるものの、戦後最大の災害となった東日本大震災では深刻の度合いが増した。

そこで研究集会では、下水道高普及都市において大規模地震災害が発生して下水道機能が失われ、トイレが使えないというのはどういう状態なのかを東日本大震災の被災地から見るとともに、災害時のトイレ確保のあり方を考え、なかんずく下水道は、関連部局と連携したうえで何をすべきか、そのために何を準備しておくべきなのかを議論する目的で開催した。なお、本研究集会では、国土交通省の後援を得た。

・日時：平成 24 年 7 月 11 日（水）14：00～17：30

・場所：砂防会館別館シェーンバッハ・サボー 3 階「立山」

・プログラム

1. 講演 1 「災害時トイレ確保と問題解決に向けた下水道への提案」

NPO 法人 日本トイレ研究所 代表理事 上 幸雄 氏

2. 講演 2 「東日本大震災における浦安市のトイレ状況と対策」

浦安市都市環境部長 長峰 敏幸 氏

3. 講演 3 「東京都における震災時のトイレ対策」

東京都下水道局 計画調整部 緊急重点雨水対策事業担当課長 柳 雄 氏

4. 話題提供 1 「災害時のトイレ確保と下水道の役割」

国土交通省水管理・国土保全局下水道部 下水道事業課 課長補佐 榊井 正将 氏

5. 話題提供 2 「横浜市下水道 BCP 策定に向けて」

横浜市環境創造局 下水道計画調整部

下水道事業調整課 下水道事業調整担当 高野 政和 氏

6. 全体討議

コーディネーター：21 世紀水倶楽部 理事 栗原 秀人

・開催規模：参加人数 84 名（公共団体 16 名、トイレ研究所関連 6 名、一般 20 名ほか）

災害時に実際に市民へのトイレ対策を行う区市の担当部局職員など公共団体の参加が多かったほか、トイレ研究所の協力を得たこともあり、病院関係者の参加もあった。

・総括

これまでの震災体験から、災害時のトイレは、被災直後から幾つかのトイレが組み合わせられながら、時系列的、段階的により使いやすいものに改善されていく必要があることが認識された。その最終的なかたちは水洗トイレになるが、トイレを段階的に良いものにしていくためには、非常に多くの関係者の連携が必要になる。

なかでも行政はさまざまな部局と連携し、地域や民間企業、NPO などとの情報共有を進め、

そのそれぞれが事業継続計画を作ることが大切である。特に、災害時トイレの問題を解決するためには、下水道部局の取り組みが重要であるため、下水道はもっと前へ出て、多くのステークホルダーに情報発信していく必要がある。「トイレは下水道の入口」であり、普段からそのことを多くの人たちに理解してもらいながら、対策を講じていく必要がある。

以上が研究集会が導き出した災害時のトイレ問題解決のための方向性と言える。この研究集会以降、トイレ研究所による下水道とトイレの連携に関わるシンポジウムの開催等もあって、多くの公共団体がこの問題に対する関心を高めているが、ステークホルダーとの連携を行うための方策や、より使い勝手の良い災害用トイレの技術開発、下水道システムが被災しないための、いわゆる耐震化の技術開発など具体的な問題解決を進めていく必要がある、今後はこの研究集会をさらに前進させていくことが望まれる。

2.1.2 研究集会「21世紀の消化技術を考える」2012.10.12

・開催主旨： 資源循環、創エネの観点から、汚泥のメタン発酵、消化技術の果たす役割に大きく注目が集まっている。汚泥消化技術が21世紀の課題についてどのように対処していけるのか、本年新しくまとめられたJ S技術評価書のエッセンスを紹介いただくとともに、消化先進都市の事例を踏まえながら議論を深めていただいた。当日のプログラムは以下のとおりである。

開催日：平成24年10月12日（金）14：00～17：00

開催場所：（財）下水道新技術推進機構8F中会議室

プログラム：

嫌気性消化プロセスの技術評価について

日本下水道事業団技術戦略部長 野村充伸

山形市における、下水資源の有効利用

山形市上下水道部浄化センター所長 奥出晃一

大阪市における汚泥消化技術と水の高度処理

大阪市建設局下水道河川部水質管理担当課長 中平 亨

総合討議

・講演概要：

J S技術戦略部の野村部長さんによる最初の発表では、まず話題の再生可能エネルギーの固定価格買取制度の紹介、続いて、J Sの技術評価で検討された「熱改質高効率嫌気性消化システム」「担体充填式高速メタン発酵システム」の研究成果が発表された。野村部長さんは急遽所用で総合討議まで在席できなくなったため、講演後ただちに質疑応答、2相消化法の実用化、最初沈殿池の効率改善とガス発生量の関係などについて質疑応答が行わ

れた。

2 番目、山形市浄化センター奥出所長さんの発表では、昭和 40 年の稼動以来、コンポストならびに消化ガス発電の導入経緯が紹介された。昭和 63 年に導入したガスエンジンから現在では燃料電池に切り替えが行われており、水処理の省エネ運転を前提とすると、ガス発電による電力回収率は 70%に達する見込みである。

最後の大阪市下水道河川部の中平水質管理課長さんによる発表では、汚泥を焼却熔融することを前提として、汚泥処理システムの最適化の検討を行った結果、高温・高濃度消化プロセスを介して、消化汚泥を集約することが最適であるという答えを得た経過が紹介された。消化脱離液返流水の COD、アンモニア性窒素対策が課題となるが、アンモニアはアナモックス細菌を用いた新技術処理法に期待が掛けられている。

総合討議では、発電電力の需給調整、消化槽の堆積問題、返流固形物負荷問題、ディスポーザ導入、固定買取制度の実際、燃料電池の性能、消化プロセス普及の課題など、広範な観点から質疑応答が行われた。

・摘要：

今回の研究集会は案内掲載後、直ちに定員 50 名に達してしまい、少なからずの皆様に参加をお断りする事態も出てしまった。本課題に対する関心の高さが示されたと共に、研究集会の企画運営の観点からは課題を残すこととなった。なお当日の参加人数は 54 名、その内訳は会員 27 名、公的機関 7 名、民間会社 20 名である。

2. 1. 3 研究集会「排水設備の今日的課題」2013. 1. 30

・開催趣旨

下水道システム全体の中で私有地内の排水設備は、下水道管理者である地方公共団体の管理・監督が及ばず、適切な管理がしづらい状況にある。これまで不適切な設置管理で硫化水素が発生しコンクリートが腐食したり、雨水管と汚水管の誤接合などの問題があった。

そこで、排水設備に焦点を当て、管理の現状や問題を洗い出し、今後の対策や課題解決のための方向性について議論する目的で開催した。

なお、この研究集会は、排水設備と取付管の課題をテーマとして連続して開催する連続研究集会「排水設備と取付管の今日的課題」の第 1 弾として行われたもので、3 月 27 日には、道路陥没の大きな原因となっている取付管を対象とする第 2 弾の研究集会「取付管の今日的課題」が行われた。

- ・日時：平成 25 年 1 月 30 日（水）13：30～17：00
- ・場所：（財）下水道新技術推進機構 8 階中会議室
- ・プログラム

1. 講演1「日本における排水設備の管理について」

(公社)日本下水道協会 企画調査部 経営調査課 課長 棚橋 博行 氏

2. 講演2「下水道システムとしての排水設備の問題点」

下水道アドバイザー 成原 富士郎 氏

3. 講演3「マンション排水設備の変遷と管理における課題」

(一社)日本建築設備診断機構 専務理事/株ジェス 代表取締役 安孫子 義彦 氏

4. 全体討議

コーディネーター：21世紀水倶楽部 理事 山崎 義広

・開催規模：参加人数 59名（公共団体6名、一般23名ほか）

・総括

排水設備は、下水道、建築、指定工事店、メンテナンス事業者、住民と、設置や管理等が幾つかの分野にまたがることもあって、とりわけその管理が徹底されていないうえ、設置基準や管理基準等が歴史的な経緯等により不合理な面がある。また、高層マンションの建設や節水機器・ディスポーザ等の普及などに伴うライフスタイルの変化もあるのに加え、大規模地震への備えも必要となっている。

研究集会では排水設備に関わる法規制、具体的な問題点、マンションにおける排水設備の現状と問題点などについて講演していただき、それを踏まえて問題点の解決に向けた方向性を議論した。全体討議では結論を得られるまでには至らなかったが、議論を通して浮かび上がるのは、●下水道システムの一部である排水設備には、独自の専門用語や整備のあり方、考え方があり、まずは下水道、住民等それぞれが排水設備について設置や構造等について理解を深める必要がある、●排水設備にはコスト高となる不合理な設置基準や慣習等があるため、関係者が連携して議論を進め、具体的な問題点を洗い出し、改善していく必要がある、●そのためには建築事業者、排水設備の指定工事店・責任技術者・メンテナンス事業者、下水道（行政）、住民の連携が求められる、などである。

2.1.4 研究集会「取付管の今日的課題」2013.3.27

・開催趣旨

公共ますから下水道管に至るまでの取付管は、これまで道路陥没の最大要因になってきた。国土技術政策総合研究所の調べによると、最近の下水道管路施設に起因する道路陥没は4,000件前後で推移しており、その原因施設の約半分を取付管が占めている。

そこで、下水道管路施設に起因する道路陥没の実態や、その多くを占める取付管の材料・構造、設置の考え方、更新の考え方などの情報提供を行い、それを踏まえて今後の対策や課題解決のための方向性を議論する目的で開催した。

この研究集会は、1月30日の研究集会とともに、連続研究集会「排水設備と取付管の今日的課題」の位置付けで行われたものである。

・日時：平成25年3月27日（水）13：30～17：00

・場所：（財）下水道新技術推進機構8階中会議室

・プログラム

1. 講演1「取付管の視点から見た道路陥没の現状」

国土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水道研究室 主任研究官 深谷 渉 氏

2. 講演2「包括的業務委託に関する鳥取市の取り組み」

鳥取市環境下水道部 下水道企画課 課長補佐 田村 温 氏

3. 講演3「千葉市における取付管等管理の現状と課題」

千葉市建設局 下水道建設部 下水道計画課 課長補佐 鎗田 篤治 氏

4. 講演4「取付管に関わる管理と更新」

（公社）日本下水道管路管理業協会 会員

管清工業(株) 生産技術部 公共事業担当主任 佐藤 秀樹 氏

5. 全体討議

コーディネーター：21世紀水倶楽部 理事 山崎 義広

・開催規模：参加人数60名（公共団体9名、一般26名ほか）

・総括

研究集会では、下水道が起因する道路陥没の実態や、管理の新しい手法としての、鳥取市の管路と処理場一体の包括的民間委託、東日本大震災を踏まえた千葉市の取付管等管理の考え方、実際の取付管管理の技術や手法について講演していただき、その実態を深く掘り下げ、課題解決のための方向性を探る全体討議を行った。

全体討議で課題解決のための方向性を示すまでは至らなかったが、議論を通して得られたところは、●道路陥没の原因施設として陶管の取付管の割合が最も多く、塩ビ管への取り替えが望まれる、●管種を問わず、取付管の設置工事における施工不良も陥没原因となっているうえ、他工事による取付管の損傷も少なくないため、きちっとした施工管理や他工事での立ち合い、他工事に対する指導などが求められる、●東日本大震災における千葉市の取付管等の被災状況を踏まえ、取付管等の耐震化が必要である、●取付管を簡易に調査できる調査技術や、取付管の曲線部をシワなく更生できる更生技術など、新たな技術開発が待たれる、などである。

1月30日開催の研究集会と合わせて実施した連続研究集会「排水設備と取付管の今日的課題」を総括すると、下水道管理者が管理しづらい排水設備と取付管については、ハード的にもソフト的にも課題が山積していること、それらの課題解決に向けて今後、下水道に

はより積極的な取り組みが求められることが浮き彫りになったのではないかとと思われる。また、平成24年7月に開催した研究集会「災害時のトイレ確保と下水道の役割」とも密接に関わるテーマであり、災害時のトイレを確保する上で、排水設備と取付管の耐震化が今後の大きな課題となることが認識された。

2.2 その他の活動

2.2.1 みづなぐプロジェクト下水道展2012神戸 活動結果2012.7.24～27

みづなぐプロジェクトチームは、夏の定番イベントである下水道展（開催地：神戸市）において「クイズラリー」を企画し、その運営協力を行った。これは、従来のパブリックコーナーにおいて個別にPRされている展示物の中から、「水と食のリレー」に関わる取り組みや課題などを抜き出し、それらを物語（水や食べかすなどが循環するストーリー）の構成要素として結びつけ、その物語に沿って一般来場者に見てもらおうという企画である。つまり、「点のPR」から、有機的なつながりを持った「線のPR」へと転換を図るもので、今回は新たに民間企業6社の参画を得た。

パブリックゾーンのステージ脇にスタート地点を設置。そこから3つの展示館に点在する計15の団体ブースをつなぐコースを設け、各1問ずつクイズを解いてもらいながら、水や食の循環における下水道の役割などを理解してもらった。

参加者は4日間で延べ1319人と、前年の東京開催（2528人）と比べると1000人強減少した。これは、会場へのアクセス条件や小学校等への周知の遅れなどが影響したものと思われる。ただし、子供をメインターゲットとしているため、付き添いの父兄などを含めると実質的な参加者はさらに多いものと考えられる。

今回は前述の通り会場が3館に分かれていたこともあって、参加者の案内に苦労した点が多かった。ボランティアの協力がなければ運営はかなり難しかったと思われる。

○実施期間：平成24年7月24日（火）～27日（金）

○場所：神戸国際展示場（神戸市中央区港島中町6-11-1）

○体制：主催：日本下水道協会（主催）

企画連携・ボランティア協力：下水道広報プラットフォーム、NPO法人21世紀水倶楽部

参加団体：神戸市、堺市、関西地方下水道協会、下水道高度処理促進全国協議会、地方共同法人日本下水道事業団、財団法人下水道新技術推進機構、公益社団法人日本下水道管路管理業協会、社団法人日本下水道処理施設管理業協会、社団法人全国上下水道コンサルタント協会、株式会社神鋼環境ソリューション、住友重機械エンバイロメント株式会社、月島機械株式会社、前澤工業株式会社、メタウォーター株式会社、東京都下水道

サービス株式会社

○会員活動：21世紀水倶楽部からは「みづなぐプロジェクトチーム」の中山が中心となってクイズラリーのお手伝いをさせていただいた。その内容は主に、ラリーポイントのうち分かりにくい箇所を案内しつつ、参加者が関心を持った点などについて分かりやすく解説をするというものである。

○参加者数：クイズラリーの参加者数は下表の通り1319人で、昨年（東京開催：4日間トータル2528人）の半数程度であった。

参加者数は解答用紙を配布した数でカウントとしたものであり、実際には子供と一緒にまわった保護者もいる。つまり、厳密には集計値よりも多い参加者があったと言える。

下水道展'12神戸 クイズラリー参加者

	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日	4日間合計
クイズラリー参加者	192	225	255	647	1,319

実施結果

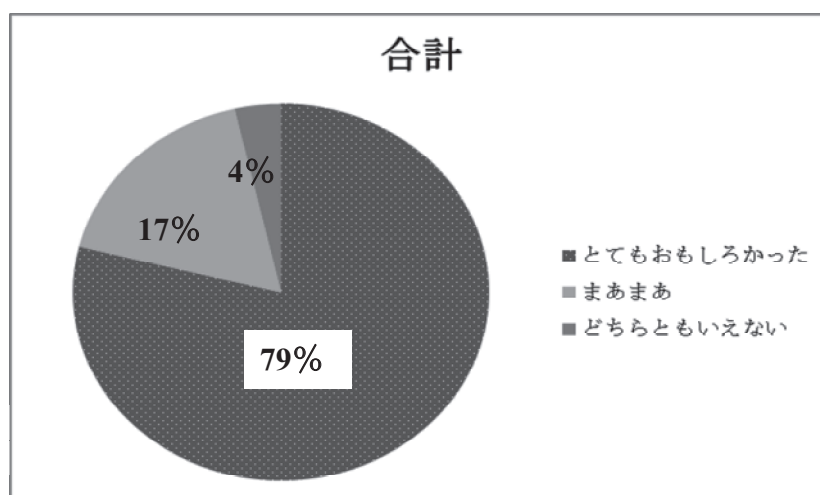
- ・前回使用した「水と食べ物の循環」の絵を修正（白い卵形消化槽を加えるなど、神戸色を出した）し、クイズの解答用紙にカラー印刷した。また、解答欄も団体名などを省いて極力シンプルな作りにした。
- ・展示場が3つに分かれていたことから、各ブースの連携が昨年よりも困難であった。特に入り口が各所に点在していたため、参加登録をせずに入館する人が見られた。
- ・コースをすべて回るとかなりの長距離になるため、途中であきらめて帰った参加者もいた。
- ・前述の通り入口が複数あったことが災いして、来場者に対する主催者側（運営会社）の入館チェックが厳しすぎた感がある。詰問調で迫るスタッフがいて、怖がって帰ってしまう子供たちもいた。
- ・今回は中学生の参加が少なかった印象。
- ・夏休みの自由研究のネタを探しに来る親子が少なくなかった。
- ・同時に複数の子供たちがクイズに挑戦する際、初めに解った子供が大きな声で正解を言う傾向が強い。
- ・子供は大人以上に真剣にクイズと向き合っていた。
- ・神戸は大震災を経験していることもあって、下水道の地震対策に関心を寄せる主婦が少なくなかった。下水道展全体を見渡すと、こうした関心事に直結する一般向けのPRが

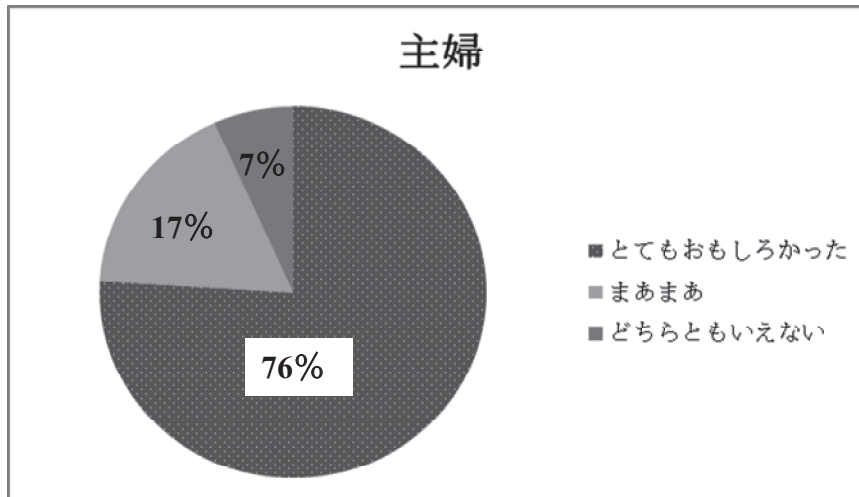
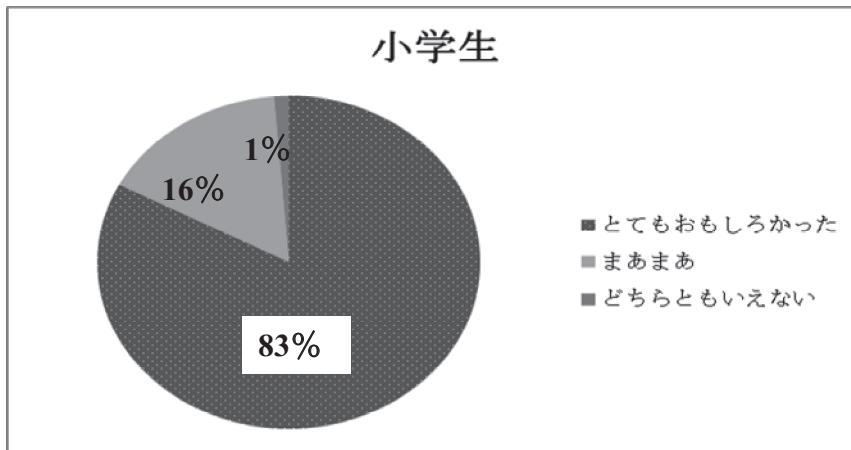
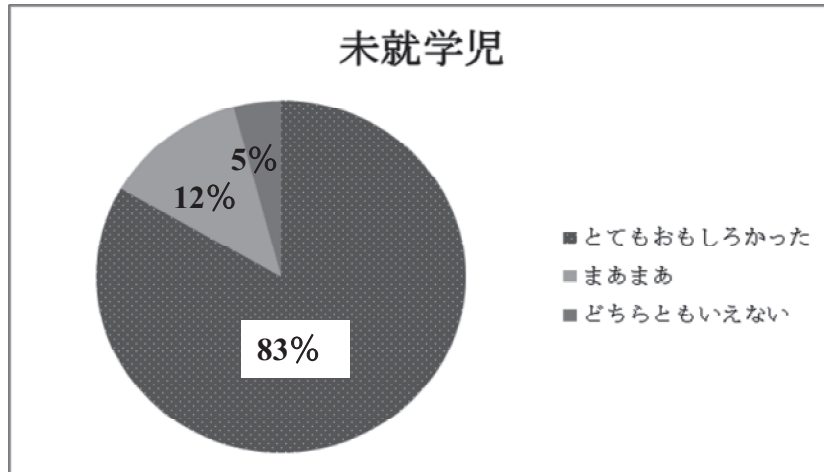
不足していたように思う。

- 今回のように展示スペースが狭いと、ベビーカーを押し、さらに荷物を抱えながら歩く主婦には負担が大きい。また、クイズラリー等への参加意欲を削ぐ要因にもなる。やはりスペースの問題は重要である。
- 以下の通りアンケートの結果は概ね良好なので、今後とも継続していきたい。

クイズラリー参加者アンケート

	とてもおもしろかった	まあまあ	どちらともいえない	おもしろくない	非常につまらない
未就学児	20	3	1		
小学生	67	13	1		
中学生	6				
高校生	1				
大学生					
短大・専門					
社会人	19	9	1		
主婦	57	13	5		
その他	3	1			
無記入	3				
合計	176	39	8	0	0





2. 2. 2 イタリア上下水道遺跡見学ツアー 2012. 4. 19～

当水倶楽部では、初めての企画として“イタリア上下水道をめぐる旅”のツアー旅行を平成 24 年 4 月に実施した。このツアーは、「下水道の元祖、ローマのクロアカ・マキシマを調査しにいこう！」の提案から始まり、ボローニャ在住の清水副理事長の娘さんにコー

ディネータ役を勤めていただき、具体的な訪問場所を詰めていくこととなった。上下水道の遺跡を見るという一般観光の範囲外の見学のアレンジに関しては、ローマ・ソッテラネア (Roma Sotterranea) の助力を得た。ローマ・ソッテラネアとはローマ地区の地下空間の歴史遺跡を調査している洞窟学者のグループを母体としている団体であるが、地下遺跡に関係する特別な見学ツアーのお手伝いもしている。また、クロアカ・マキシマの一般公開が中止されたという情報が入ったため、IWA (国際水協会) のイタリア支部幹事である Drusiani 氏にコンタクトをとり、サジェスチョンをいただいた。こうした特別なアレンジも踏まえて、ユーラシア旅行社に総合的なツアー計画を組んでいただき実施の運びとなった。ツアー参加者は、亀田理事長をはじめ 11 名と、現地コーディネータ、通訳も兼ねていただいた清水みのり氏を加えて 12 名、バスによる移動を主として、以下に示す日程、行程で実施した。このツアーは当初 2011 年 5 月に実施予定であったが、東日本大震災のため 1 年延期して実施することとなった。

表－1 イタリア上下水道遺跡見学ツアーの日程、行程

	2012 年月日	行 程
1	4 月 19 日 (木)	東京成田発 ローマ着
2	4 月 20 日 (金)	ローマ (ヴェルジネ水道、トレヴィの泉)、オスティア・アンティカ遺跡
3	4 月 21 日 (土)	バチカン見学、ローマ郊外クラウディア水道橋、フォロ・ロマーノ見学
4	4 月 22 日 (日)	ポンペイ遺跡、ナポリ市内見学
5	4 月 23 日 (月)	ローマ (クロアカ・マキシマ排水口、ナヴォーナ広場)
6	4 月 24 日 (火)	ボローニャ (市内水路見学)、カーザレッキョ・ディ・レーノ (世界最古のダム見学)
7	4 月 25 日 (水)	フェラーラ (国立考古学博物館)、コマッキオ観光、パドヴァ (スクロヴェーニ礼拝堂)
8	4 月 26 日 (木)	パドヴァよりヴェネツィア (ブレンダ運河クルーズ)
9	4 月 27 日 (金)	ヴェネツィア見学
10	4 月 28 日 (土)	ミラノ (サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会)、市内のローマ時代遺跡や運河を見学
11	4 月 29 日 (日)	ミラノ発
12	4 月 30 日 (月)	東京成田着

この行程に示されるように、前半は古代ローマの上下水道遺跡の見学を重点的に行い、後半は水に係る箇所の観光プログラムもかなり入れ込んだ。ツアー中は天気にも恵まれ、事故も無くよい旅行となった。古代ローマの水道施設そしてクロアカ・マキシマの排水口、ローマ郊外の港町オスティアの水洗トイレの遺跡、ポンペイの水道、道路排水溝の遺跡、ローマ時代に大きく発展した上下水道技術をこの目で見ることができ、参加者には大きな収穫となった。最後に古代ローマ遺跡フォロ・ロマーノで撮った参加者集合写真、ならびにオスティアの公共トイレ遺跡の写真に掲載する。なお、イタリア上下水道をめぐる旅の詳細は、「月刊下水道」平成24年11月号、12月号にも紹介されている。(清水洽：イタリア上下水道をめぐる旅1、Vol. 35, No13, pp37-43. 佐藤和明：イタリア上下水道をめぐる旅2－ローマ、ポンペイの上下水道遺跡－Vol. 35, No14, pp49-56.)



写真-1 フォロ・ロマーノにて全員集合写真



写真－2 オステティア遺跡における公共トイレ

2.3 出前講座

2.3.1 「いのちと水の連続講座」との共催「私たちの流した水はどこへゆくのか」2012.8.9 ほか

－ 流した下水を追っかけて下水道の大切さを実感する－

多くの人は使う水の質や量には神経質すぎるほどに気を使う。安全で美味しい水を得るために結構お金も使っている。そんな人々でさえ使った後の水の行く先はほとんど意識することがないという結果が各種のアンケート調査から明らかだが、その先にある下水道の存在や役割が十分にわかってもらえているのだろうかと心配になってしまう。

そこで表題のテーマの出前講座を実施した。

まず、街や暮らしが如何に水を使うことで成り立っているのか、そして使われた水のほとんどが「下水」となって「下水管」に流されていること。「下水管」で集められた「下水」は「下水処理場」で微生物によって綺麗にされ、「川や海」を守っていること等々を自分が出した下水を下水管に沿って追いかけて水再生センターとその先にある水域までを辿り、先々の街と暮らしと水の間を辿りながら、「下水道」が暮らしや街を支え、水環境を守っていることを実感してもらおうという企画です。

この講座は「生活クラブ東京」主催（後援：世田谷区、世田谷区教育委員会）の「いの

ちと水の連続講座」と共催し、東京都下水道局の南部下水道事務所及び森ヶ崎水再生センターの絶大なるご協力を得ながら二日間かけて実施したものです。

○第一日目

実施日時：平成 24 年 8 月 9 日 午前 10 時から 12 時 30 分

場所：生活クラブ館及び地先の公共ます、下水道管（枝線及び北沢幹線）

参加者：生活クラブ組合員及び事務局（主婦等）、世田谷区職員、小学生等 25 名

講座内容

① 座学「私たちの流した水はどこへゆくのか」

② 「流した下水を追っかける第一日目」

生活クラブ館から公共ます→下水道管（枝線→北沢幹線）まで

○第二日目

実施日時：平成 24 年 8 月 23 日 午前 10 時から 15 時 30 分

場所：北沢幹線（下流の幹線に沿って車中森ヶ崎へ）及び森ヶ崎水再生センター、東京湾

参加者：生協会員（事務局含む）、小学生等 29 名（一部は今回参加のみ）

講座内容

① 「流した下水を追っかける第二日目」

北沢幹線から目黒川幹線→森ヶ崎幹線→大森幹線→森ヶ崎水再生センターまで

② 森ヶ崎水再生センター見学

バックヤード的見学に加え各自持ち寄った汚水の水質検査、放流先の東京湾まで

○ 参加者の感想

参加者から次のような感想をいただき、スタッフ一同感激した。

- ・ 下水道が身近に思えるようになりました。
- ・ 上水道とはちがい、目にふれにくい下水道の海までの経路をたどることで水の大切さを改めて感じた。
- ・ 見えない道路下の下水道管に思いをはせながら今後生活できると思います。
- ・ 汚れたにおう汚水をきれいにして下さるととてもありがたいと思いました。トイレで流す度ありがとうございますようにします。
- ・ 再処理場が微生物の牧場なので、日々の生活で、少しでも水を大切に使う水を汚さずに生活していきたいと思いました。
- ・ 下水道に対する見方が変わりました。一人一人が自分の流す水について思いをはせ、気をつけるようになれば、川も海も昔のような“きれい”な水質になることを実感できました。
- ・ 下水処理場のすごさ、大事さが、いまいち世の中に浸透していないような気がする。川

は勝手に（S30年以降）きれいになったわけじゃない。

2.3.2 小平市ふれあい下水道館特別講話 2012.12.16

平成24年12月16日 日曜日 13:30～15:30 小平市ふれあい下水道館—特別講話—において約30名の地元住民を集めて講話した。

- ・中西 正弘「古代遺跡にみる上下水道」と題して奈良県明日香村の飛鳥寺西門跡から出土した土管や水時計(水落遺跡)などを写真で紹介した。
- ・清水 洽 「イタリア上下水道をめぐる旅」と題して平成24年4月19～25日 NPO 21世紀水倶楽部の企画ツアーで出かけたイタリアのローマ、ポンペイ、ボローニャ、ヴェネツィア、ミラノの各都市の上下水道遺跡を写真で紹介した。

3. 平成23年度末会員等の現況

3.1 平成25年3月31日現在の会員数は次の通り

- (1) 正会員 87名 (前年度末より8名入会6名退会で)
- (2) 賛助会員 8社 (前年度末より2社入会で)

3.2 会員数の概括的展望について

新たに入会される方、退会される方、これらを整理した正会員数は下記の表の通りである。正会員の数は表面的には順調に数を増しているといえる。しかしながら、その内容を精査してみると大部分は下水道と深い関わりを持った会員であり、水道、河川、その他環境部門の会員は極めて少ない。会の名称である「21世紀水倶楽部」の「水」という視点から判断すると「羊頭狗肉」の感が無きにしも非ずと思われる。

退会される会員の大多数は、定年退職または年齢的に第2の職場を離れられる方であり、これからの生活を考えると下水道等とあまり深い付き合いがないだろうと判断されていると推測される。(退会理由は特に要求してない) また、新たに会員となられる方も比較的高齢者が多いようだ。現役を退かれ、顧問等の自由時間のある方が多いようだ。現役バリバリの会員は極めて少数である。これがNPOのウイークポイントである。ボランティアを趣旨としている以上、銭にならない作業に若い方をどのように惹きつけるか? どなたか解答をお寄せください。

また、24年度末の会員87名中、首都圏以外の会員が12名含まれる。ボランティアを趣旨としているが、地方会員への会員サービスをどのようにすべきか? これも難しい問題である。

正会員数の推移

年度末	16	17	18	19	20	21	22	23	24
正会員	60	66	69	69	70	73	75	85	87
増減		+1	+3	±0	+1	+2	+2	+10	+2

4. 平成24年度決算報告の概要

—平成25年6月20日開催の総会資料の通り—

- 4.1 事業報告
- 4.2 活動計算書
- 4.3 貸借対照表
- 4.4 監査報告

資料編（平成25年6月20日通常総会資料）

1. 議案審議

第1号議案（平成24年度事業報告、活動計算書、貸借対照表、監査報告）

第2号議案（平成25年度事業計画書、活動予算書）

第3号議案（役員を選任）

2. その他（報告事項）

下水道展13東京における当倶楽部の活動について（資料略）

第1号議案－1

平成24年度 事業報告

H25.3.31

1. 会員数

	当初計画	実績
正会員	85名（目標 90名）	87名
賛助会員	6社（目標 7社）	8社

2. 総会及び理事会

総会	平成24年6月21日
理事会	平成24年6月 8日

3. 事業実績

(1) 研究集会及びシンポジウム等の開催

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| ① テーマ「災害時のトイレ確保と下水道の役割」 | H24.7.11 |
| 講師 上 幸雄、長峰 敏幸、柳 雄、柳井 正将、高野 政和 | 84名 |
| ② テーマ「21世紀の消化技術を考える」 | H24.10.12 |
| 講師 野村 充伸、奥出 晃一、中平 亨 | 54名 |
| ③ テーマ「排水設備の今日的課題」 | H25.1.30 |
| 講師 棚橋 博行、成原 富士郎、我孫子義彦 | 59名 |
| ④ テーマ「取付管の今日的課題」 | H25.3.27 |
| 講師 深谷 渉、田村 温、鎗田 篤治、佐藤 秀樹 | 60名 |

(2) 出前講座（講師派遣）

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| ① 「私たちの流した水はどこへゆくのか」
——流した下水を追っかけて下水道の大切さを実感する——
場所：東京都森ヶ崎水再生センター他
コーディネーター 本会理事 栗原 秀人 | H24.8.9、H24.8.23 |
| ② 「古代遺跡にみる上下水道」
「イタリア上下水道をめぐる旅」
場所：東京都小平市ふれあい下水道館
講師 本会員 中西 正弘、本会理事 清水 洽 | H24.12.16 |
| ③ エコプロダクツ展での活動
GKP（下水道広報プラットフォーム）ブースへの説明員の派遣
場所：東京ビッグサイト | H24.12.13—12.16 |

(3) みづなぐプロジェクト

下水道展 2012 神戸 クイズラリーの実施

(4) 見学会

木更津の干潟（盤洲干潟）見学会

H24.7.4

(5) 「21 世紀水倶楽部だより」発行 第 23～26 号

(6) ホームページの充実

- ① 「下水道何でも、家庭排水とその処理いろいろ」の拡充
- ② 「列車トイレ世界編」の追加
- ③ 「世界のトイレ」新設
- ④ 「江戸下町の水回り」新設

平成24年度 特定非営利活動に係る事業の会計 活動計算書

H24年04月01日～H25年03月31日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位：円)

科 目	金 額		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
会費収入			
【正会員会費】		538,000	
【賛助会員会費】		400,000	
会費収入計			938,000
事業収入			
【災害時のトイレ確保と下水道】		46,000	
【消化技術を考える】		40,000	
【排水設備】		34,000	
【取付管】		52,000	
事業収入計			172,000
寄付金収入			
【寄付金】		0	
寄付金収入計			0
雑収入			
【受取利息】		398	
雑収入計			398
経常収入合計			1,110,398
II 経常支出の部			
事業費			
【災害時のトイレ確保と下水道】			
印刷製本費	49,644		
会場費	135,135		
講師謝金	33,000		
講師交通費	9,000		
雑費	1,953		
計		228,732	
【消化技術を考える】			
印刷製本費	18,700		
会場費	2,960		
講師謝礼	20,000		
講師交通費	69,160		
雑費	600		
計		111,420	
【排水設備】			
印刷製本費	10,200		
会場費	3,700		
講師謝金	20,000		
講師交通費	21,280		
雑費	625		
計		55,805	
【取付管】			
印刷製本費	15,360		
会場費	3,700		
講師謝金	21,100		
講師交通費	75,880		
雑費	750		
計		116,790	
事業費計			512,747
管理費			
【管理費】			
会議費	8,710		
交際費	0		

平成24年度 特定非営利活動に係る事業の会計 活動計算書

H24年04月01日～H25年03月31日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位：円)

科 目	金 額			
通信運搬費	49,306			
消耗品費	2,367			
印刷製本費	34,965			
リース料	12,580			
諸会費	30,000			
支払手数料	1,942			
租税公課	0			
雑費	8,085			
【管理費】計		147,955		
【雑損失】				
管理費計			147,955	
経常支出合計				660,702
経常収支差額				449,696
Ⅲその他資金収入の部				
その他資金収入の部合計				0
Ⅳその他資金支出の部				
その他資金支出の部合計				0
その他収支差額				0
当期収支差額				449,696
前期繰越収支差額				1,955,168
次期繰越収支差額				2,404,864
(正味財産増減の部)				
V正味財産増加の部				
資産増加額				
【当期収支差額】		449,696		
資産増加額合計			449,696	
正味財産増加額計				449,696
Ⅵ正味財産減少の部				
資産減少額				
【当期収支差額】		0		
資産減少額合計			0	
正味財産減少額合計				0
当期正味財産増減額				449,696
前期繰越正味財産額				1,955,168
期末正味財産合計額				2,404,864

平成24年度 貸借対照表 (H25年3月31日現在)

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 特定非営利活動に係る事業の会計

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	58,381	前受金	6,000
普通預金	1,271,806	流動負債合計	6,000
ゆうちょ銀行(普通預金)	1,032,677	固定負債	
ゆうちょ銀行(振替口座)	0	固定負債合計	0
未収金	48,000	負債合計	6,000
流動資産合計	2,410,864	正味財産の部	
固定資産		前期繰越正味財産	1,955,168
固定資産合計	0	当期正味財産増減	449,696
		正味財産合計	2,404,864
資産合計	2,410,864	負債及び正味財産合計	2,410,864

監査報告

特定非営利活動法人「21世紀水倶楽部」定款の定めにより、
平成24年度に係わる財務及び会計の監査を行った結果、
適正と認められたことを報告いたします。

平成25年5月7日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

監事 河井 竹彦



平成25年度 事業計画書

平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

1 事業実施の方針

研究開発事業では、「下水道と放射能」、「活性汚泥百年」、「国際化」、「水環境」をテーマにしたセミナー等を開催し、今後の進むべき方向を討議し提言する。本年度は当 NPO の創設 10 周年の年であり、講演会等の記念事業を実施する

普及啓発事業では、「各種出前講座」、「エコプロダクツ展」、「クイズラリー」、「ディスプレイの普及」等の活動を実施する。引き続き「下水道何でも」、「放射能汚泥処理技術一覧」などの HP の充実を図る。

また、活性汚泥誕生百年記念行事など普及活動を促進する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
研究開発事業	セミナー、研究集会 ① 下水道と放射能 ② 活性汚泥百年 ③ 国際化 ④ 水環境 ⑤ トイレと下水道	4月から3月まで	都内会場など	50名	全国不特定多数	280
普及啓発事業	講習会 ① ディスプレーの普及 ② 下水道展出展等 ③ 管路シンポジウム	4月から3月まで	都内会場など	30名	全国不特定多数	280
普及啓発事業	① HPの充実 ② 何でも相談室」の活用 ③ 「思い出の記」 ④ 写真館 ⑤ 放射能汚染汚泥等の処理等一覧	4月から3月まで	法人事務所	16名	全国不特定多数	450
普及啓発事業	① 出前講座(小学校など) ② 10周年記念事業	4月から3月まで	都内会場など	30名	全国不特定多数	50

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込み額(千円)
実施計画なし					

平成25年度 特定非営利活動にかかる事業会計活動予算書

平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費収入		
正会員90名	540,000	
賛助会員8名	400,000	940,000
2 事業収入		
3 補助金等収入		
4 寄附金収入		
5 その他収入		
6 その他の事業会計からの繰入		
当期収入合計		940,000
II 支出の部		
1 事業費		
印刷費	80,000	
通信運搬費	20,000	
会場費	200,000	
旅費交通費	230,000	
講師謝金	500,000	
雑費	30,000	
		1,060,000
2 管理費		
什器備品費	10,000	
事務用品費	10,000	
消耗品費	10,000	
通信運搬費	70,000	
諸会費	30,000	
印刷製本費	300,000	
雑費	10,000	
		440,000
3 予備費		
予備費		40,000
当期支出合計		1,540,000
当期収支差額		-600,000
前期繰越収支差額		2,404,864
次期繰越収支差額		1,804,864

NPO21世紀水倶楽部 役員名簿

H25/6/20選任

理事長	亀田 泰武	
副理事長	清水 洽	
理事	阿部 恭二	
理事	栗原 秀人	
理事	昆 久雄	
理事	佐藤 和明	
理事	巽 良雄	
理事	田野 嘉男	事務局長
理事	土屋 潔	
理事	中西 正弘	
理事	廣本 真治郎	
理事	望月 倫也	
理事	山崎 義広	
理事	山下 博	
理事	渡部 春樹	以上15名

監事	河井 竹彦	
監事	藤原 昇	以上2名

任期:2年間(平成27年6月総会まで)

